

土浦市民憲章

昭和50年12月23日制定

- 1. 互いに信じ 助けあう
あたたかいところをそだてましょう
- 1. からだをきたえ 仕事にはげみ
あかるい家庭を きずきましょう
- 1. 自然を愛し 水とみどりの
きれいなまちを つくりましょう
- 1. 知性を高め 教養をつちかい
文化のみりを ひろげましょう
- 1. 伝統をふまえ 未来をみつめる
若い力を のばしましょう

一中地区市民委員会



発行・編集者：一中地区市民委員会・文化広報部会 発行日：平成30年10月16日(火)
 事務局：一中地区公民館内 TEL：029-821-0104
 世帯数 9,305戸 人口 20,219人（平成30年9月1日現在）

大鷲ブロックと 中央二丁目の紹介



一中地区市民委員会
委員長 市村 博史

大鷲ブロックは土浦中、心地区に位置し中央二丁目、東崎町、川口一丁目、大和町、桜町二丁目、桜町二丁目、立田町、城北町、蓮河原町、蓮河原新町、滝田一丁目、港町一丁目、港町二丁目、湖北一丁目、エスバイエル、ホーユーパレスの十六町内で構成され、昔から鷲神社氏子町として活動をしております。

鷲神社の年間行事のなかに皆様ご存じの二月三日の節分祭があります。江戸時代には土浦城から鷲神社にかけて節分追儺式が行われ、その帰りに厄を落とす習わしがあり、今日まで連綿と続いており(まかんしょ又はまーかつしよと囃し立て)中央二丁目の十字路で行われております。昔から厄を落とす場所は十字路で落せと伝えられていました。

昔の土浦は水路が多く、陸路の十字路は一か所しかありませんでした。お城から鷲神社への参道が筑波

銀行の前から中央大祇クリニツクの前を通り真鍋からの旧六号国道「水戸街道」との十字路でした。そこで厄を落とし城に戻ったと伝えられております。現在は男性四十二歳・女性三十三歳の厄落しに、小銭を豆と一緒にオヒネリを作り十字路で巻くことで厄を払っております。それを拾いに来た子供達が「まかんしょ、まかんしょ」と囃し立ておひねりを拾い楽しんでおります。なお、拾ったおひねりは厄がついているので、家には持ち込まずに使い切ってしまうのが習わしです。

中央二丁目は節分が終わると八坂祇園祭、キララ祭り続きます。秋には産業祭、川口運動公園でのカレーフエスティバルなど盛り沢山の催し物が行われている地域です。そして来年は茨城国体が行われます。大鷲ブロック内での試合会場としては土浦第二高等学校での水球、川口運動公園で軟式野球が行われます。地元開催地としてブロック全体で応援し盛り上げ土浦市の印象を良くし、また訪れたい町「土浦市」にしたいと考えております。皆様のご協力をお願いします。

自然災害と防災について



一中地区市民委員会
副委員長 遠藤 隆次

地震大国、日本では今後三十年以内に地震が起こる確率を発表した。文部科学省地震調査研究推進本部によると、東海、東南海、南海地震(M8.9) 程度70%、首都圏直下型地震(M7) 程度70%、根室沖地震(M7.9) 程度50%と発表した。

地震は勿論であるが最近の災害は西日本を襲った豪雨の自然災害である。土砂崩れに河川の決壊により水が二階まで達した。七年前の東日本大震災の津波の光景そのままであり、死者、行方不明の方が多数でて、国も激甚災害に指定した事は記憶に新しい事実である。

毎日テレビ、新聞で報道されているのを見るとボランティアの方の協力もあり、被災者宅の後片付けは、家具、家電、畳等が水につかり「災害ごみ」として道端に捨てられ瓦礫の山となっている光景は目をそむけてしまいが、それが現実である。

先輩の話によると、桜川も過去に三回堤防が決壊したことがあった。

(昭和十二年、十六年、二十六年)特に昭和十二年の時は、一階の軒下まで水が来たと言っていた。

私も平成二十三年に防災士の資格を取得した者として、西日本豪雨災害は非常に感心を持ちニュースを見た。

防災の基本は「災害が起きてから三日間は自力で乗りきる」ことである。

①自分の命は自分で守る—自助—
②自分たちの地域は自分たちで守る—共助—

③救助隊の援助—公助—

大災害の発生直後の「生きるか死ぬか」という瀬戸際には「自助」と「共助」しかないと言わざるを得ないものである。初動時の「自助、共助、公助」の比率が7対2対1と言われている。

防災を語るとき「共助」の組織として「自主防災組織」があるが実態は昔ながらの町内会、自治会がその母体と考えるのが自然である。「我が家」の安全は「耐震補強」と「家具の転倒防止」である。

ライフラインがストップしても最低3日間は支援がなくても生活出来る備えと知恵を身につけておくことが必要である。災害は大きいほど、公的機関の救助活動は制限され初動

は自助、共助で対応するしかなく地域防災力(自主防災組織)が日頃より地域防災訓練を実施して隣近所の方々と親しんでおく必要がある。

私も防災士の知識を勉強した者として、微力ながら災害発生時には、活動に積極的に参加して行く所存である。



一中地区市民委員会
副委員長
吉江 静江

新川の桜と地域の 人との交流

私は土浦市で生活を始めて四十数年になります。

近くには、新川が流れ、春先には桜の花が咲き、訪れてくる多くの人々たちを楽しませています。

私の母もその内の一人で、その花の美しさを楽しんでいたようです。

来春は、平成最後の春です。桜は、いつもと変わらず咲いてくれるでしょう。でも何かを思い、感じられるのかな。

私は、この地で子育てをし、その間、学校、地域の方々との交流を深め、出会いの中で、自分が欠けているものを埋めて頂いた様です。

また、本年度は一中地区の市民委員を受けることになり、新たな心境で頑張ります。

また市の方では、アルカス、消防署など、新しいものも作られていて、このところ少しずつ生活面でも便利になってきています。

今私は孫を育てる手伝いをしていますが、この町で大きく育ってもらいたいと願っています。



土浦第一小学校
校長
丸山 洋子

新たな教育への挑戦

小学校で六年間学び、中学校で三年間学ぶ。これが長年慣れ親しんだ義務教育の形です。本校でも毎年感動的な卒業式が挙行され、小学校六年間の学びを終えた子供たちが巣立っていきました。現在の六年生も本校の最高学年として意識を高くもち、堂々と活躍しています。

しかし、子供の成長という視点に立つと、教育を六年間や三年間というまとまりでとらえてしまうことに疑問も出てきます。教育の目標が人格の形成にあるとすれば、さらに長

い時間をかけて、一人一人の子供たちの成長を考えることが必要ですし、そう考えてあげたいと思います。

土浦市では、今年度より、全ての小中学校が小中一貫校として、義務教育九年間を見据えた学校教育をスタートさせました。新治義務教育学校のように一つの敷地に建ってはいませんが、土浦第一中学校区でも、土浦一中と土浦小、そして本校が、施設分離型の小中一貫校になりました。義務教育の九年間でどのような子供を育てるべきか、どのような力を身に付けさせるべきか、徐々に方向性が明確になり活動も活発になっています。特に本校は、土浦一中、土浦四中という二つの中学校区で小中一貫校になっており、全国でも例を見ない教育を進めていくことになっています。正に五里霧中ですが、霧の中でも私たちを導いてくれるのは、「子供のために」という思いです。二つの中学校区によさが取り入れられることを本校の強みにしながら、一步一步進んでいます。

土浦一中、土浦四中と本校の子供たちがともに活動する機会も増えていきます。このようなとき本校の子供たちは、いつも以上に張り切って活動しています。来校した先輩たちも、

頼りにされることで笑顔が多くなり、どちらの子供たちにとっても有意義な時間になっているようです。

しかしながら、教育の成果は、一朝一夕で現れるものではなく、小中一貫校の成果も同様です。九年間の学びが終了し、その後、大輪の花を咲かせる子供もいるでしょう。このような子供たちの成長を支え認めるには、地域の力が欠かせません。子供たちの可能性を信じて、地域と学校が心一つに子供たちを育んでいきますことを切に願います。ご協力をよろしくお願いいたします。



本年度の安全部の事業計画



安全部
部長 **吉村 勇一**

安全部は市民委員会での6つの専門部の一つで、より細やかなまちづくり活動が展開できるよう総務部、消防本部、市民生活部の御協力をいただき、交通安全思想の啓発、推進、防災、防犯運動を目的に活動してい

ます。

本年度の事業計画

①救急救命（AED）講習

毎年実施しております恒例のAED（自動体外式除細動器）の使用法を中心に、土浦消防本部の方の御指導のもと実施の予定（十二月）でありますので、部員の皆様の真剣な受講により、いざというときに役立てれば幸いです。

市民の皆様も職場、学校、通勤・通学途中に防災マップなどで、どこに設置してあるのか把握しておきましょう。

②公民館まつりの参加・協力（十一月予定）

一中地区公民館まつりは毎年各部会合同で行われる市民参加の楽しいイベントで、安全部は当日の駐車場・駐輪場の誘導・整理に協力して、ご来場をお待ちしております。

③視察研修

去年は、環境部との合同で東京江東区にある都中央防波堤埋立処分場及び（株）リーテム（リサイクル工場）への研修（二月実施）を行い、ゴミ問題について有意義な研修を体験してまいりました。今年度も計画実施（日程未定）予定ですので、多数の御参加をよろしくお願いいたします。

④防犯運動のぼり旗の作成配布（三月予定）

こちらは毎年行っており、防犯の棒旗を百本作成し、各町内にお配りして、少しでも犯罪の抑止につながればと願っております。

以上が、安全部からの事業計画のご報告です。

チャレンジクラブ

昨年を振り返って・生徒の感想

青少年育成部
部長 **根本 和夫**

「開講式とプランターで花づくり」

◇今年のチャレンジクラブで、「元気にあいさつ、友達を大切に、思い切って挑戦」という三つの言葉でこれからがんばっていきたいです。

私は去年チャレンジクラブで、友達がたくさん出来ました。今年も人も変わって新しい班になったので、そこで知らない人などこれから仲よくなりたいたいです。

今日のプランターで花づくりでは、きれいな赤い花を植えて、これからその花どうなっていくか楽しみです。これからこの一年がんばりたいです。



◇チャレンジクラブははじめてで、ドキドキしました。でも楽しかったです。次のチャレンジ活動が楽しみになりました。友達をつくるのががてなので、どんどん友達を増やしていることにチャレンジしてみたいと思いました。

三つの約束の「元気にあいさつ・友達を大切に・思い切って挑戦」の中で、友達を大切にと思い切った挑戦は大じょうぶそうだと思いましたが、でも元気なあいさつがとてもにがてで、学校でも元気なあいさつができないので、このチャレンジクラブをとおしてできるようにしたいと思います。

「森林のはたらきを知ろう」

◇木のプランターを作りました。しっかりとした釘を使うのははじめてで、やってみたらとてもかんたん

で、とても楽しかったです。

丸太切りでは、いがいと切るのがむずかしくて、なかなか切れなかったけど、切れたときはとてもうれしかったです。また、先生にうすく切った丸太をもらったのもうれしかったです。帰りのバスで、窓から雨の水がもれたのはびっくりしたけど、近くの人とおしゃべりしておもしろかったです。

◇わたしは、「森林・林業体験」で、木がCO2をすって空気をきれいにすることや、森が土砂くずれや、つなみを防いでくれることを知りました。



コースターを作るときは、木が意外に切れなかったけれど、作れたのでよかったです。

「防災体験とスカイツリー見学」

◇ぼうさい館で、体験は一つしかやれなかったけど、いつ地しんや火災などが起こるかわからないので、ひじょう食など、さいがいが起きても落ちついて行動したいです。

スカイツリーは、エレベーターに乗るとき耳が飛行機に乗っている時と同じ感かくなつたので、ずいぶん高いんだなーとあらためて思いました。買い物もいい買い物のできたので楽しかったです。

◇しんさいや火事はとてもおそろしいなと思いました。ひなん場所やきけんな場所をしっかりと確にんしておかないと、大変なことがわかりました。

スカイツリーは、とても高くけしきがきれいでした。どちらもまた来てみたいなと思いました。

「発泡スチロールのカ」

◇はつぼうスチロールがこんなにすごいだとあらためてかんしんしました。地球温暖化はこの先どんどん進んでいくと、人間が住みにくいかんきょうになるということが分かりました。

わたしもこの体験を通してリサイクルをし、リサイクルされたものができるだけ買いたいと思います。

「おいしいピザ作りに挑戦」

◇ピザ作りで一番楽しかったのはきじ作りです。そばのきじ作りのときとにているなと思いつながら作りました。最後のトッピングでは、チーズをたつぷりめにして、やさいもトッピングしました。やさいもを見たときどれもおいしそうに見えました。

食べた時チーズをたつぷり入れたのが正かいだと思いました。自分で作ったピザはとてもおいしかったです。

《すばらしい感想文がたくさんあつたため、選ぶのに苦労しました。掲載出来なかった、生徒さんごめん！》



◎同好会だよ

土浦スクエアダンスクラブ

関根 はま江

私たち「土浦スクエアダンスクラブ」は一中地区公民館を会場に、原則として第一・三火曜日の午後一時半から四時までダンスの習得、また会員の交流を楽しんでいます。

去る平成二十五年土浦市社会福



社協議会主催の、アクティブシニア教室参加の皆さんでクラブを立ち上げました。当初は別会場でしたが、こちらの公民館を利用して頂ぎ四年、新たなメンバーを迎えながら現在会員は十八人(内男性三人)となっています。

公民館での月三回の例会のほか、茨城県スクエアダンス連絡協議会に加盟して、県内二〇のクラブ、約五百人の愛好者の仲間と共に交流を深めることもあります。

スクエアダンスは男女4組(8人)が1セットになり、軽快なウエスタン音楽にのせて踊るアメリカのフォークダンスの一種です。

皆さんが思い浮かべるフォークダンスと大きく違う点のひとつは8人一組で踊ること、もうひとつはダンサーが踊りの順序を覚えていなくてもよいことです。曲に合わせて動きを指示する「コーラー」のもとで次々に隊形を変えていくゲームのようなウォーキングダンスです。継続することによる効用は、歩くことで脚力・筋力の増進、転倒予防。頭を使うことで脳の活性化。目標を持つことで生き生き。そして友達が広範囲にできます。

例会はいつでも見学自由です。なお、十一月の例会時と公民館まつりにおいて、体験会を開きます。続く初心者講習会ではおよそ五十の基本動作を習得します。「一緒に聞いて、反応して、歩いて、頭とからだの体操を楽しみましょう。」

◎同好会だよ
書道同好会 伯墨会
会長 高安 公夫

伯墨会を発足して六年になります。九十才を先頭に十三名の会員で「古典から書の基本を学ぶ」を目標に、大塚博先生のご指導をいただき、

楽しく、充実した時間を過ごしています。

学習は月二回、第一回は、今月の課題作品のポイントや正しい筆法を詳しく説明していただきます。ときには、市内のお寺、神社、博物館等の資料や石碑、扁額のお話になったり、先生が古文書や木簡等を直接お持ちくださり、わかりやすく説明して下さいます。

説明の後は各席を回られて個別の指導をいただきます。

第二回目の学習日は、自宅で学習しても上手くゆかなかったところの指導を受け作品を完成させます。また、各人が独自に学習創作した



書の色紙にする作品の展示会を年一回開催しております。

さらに、公民館まつりの際にはプログラム作成を学習の場とし、日頃の学習成果を発揮して、まつりに出場する「出演者」、「曲目」に相応しいプログラムにしようと、協力させていただきます。

お陰様で、先生のあたたかいご指導のもと各々会員の實力も向上し、高段位も多数誕生しております。

最近、新聞で、私たちの教材の一部にもなっている、中国唐時代・顔真卿の「祭姪文稿」(さいてつぶんこ)肉筆作品が平成三十一年一月から二月まで東京・上野の国立博物館で公開されることを知りました。

みんなで今から楽しみにしているところですよ。

みんなの広場
ボランティア活動
桜町四丁目
高一 吉山 叶望

自分が社会の手助けになっていると実感できるのはどんな時でしょうか。

私は今回のボランティア活動を通じて実感できた気がしました。

中学生の頃からボランティア活動に興味があり、高校に入学してすぐにボランティア活動に多く携わるこ

とができるインターアクトクラブに入りました。
七月十六日に「泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル」というイベントにボランティアとして参加しました。

このイベントは多くの地域住民の方々に霞ヶ浦に来ていただき、実際に水に触れて、今の現状と今後の浄化の取り組みに理解と関心を深めてもらうことを目的に開催されました。

私は一緒に参加していた先輩方とスパーボールすくいとヨーヨーつりのお手伝いをするようになりました。始まる前から小さな子供達が興味を持ってボールやヨーヨーが入ったプールを覗く姿を見て、一日楽しんで頑張ろうと思いつながら、色々な子供達と触れ合うことが出来ました。

一生懸命、弟の面倒を見ようとしているお姉ちゃんや、どちらが多くボールを取れるか競争している双子の兄弟、何回も並んで沢山ボールを

取ろうと頑張る女の子、欲しい物が取れなくて泣いてしまった男の子など、全てがとても可愛らしくて、笑いが絶えない時間を過ごしました。

身体はとても疲れているのに、沢山笑ったせいかスッキリした気分になりました。

今回参加してみて、自分が社会の手助けに少しでもなれているのかなと思つた瞬間は、「ありがとう。」と言つて手を振つて貰つた時でした。「ありがとう」の一言がとても嬉しかったです。

普段の生活の中で、この一言をあまり意識せずに使っているかも使っていないのかもしれませんが、単純そうなのかもしれないが、思い返すと私はこの一言を上手く伝えられていないかもしれないと思ひました。「ありがとう」の言葉の偉大さに気付かされた一日でした。

高校に入学してから数ヶ月間が経ち、ボランティア活動を通じて自分の視野を広げることが出来る経験をさせて貰いました。これからの学校生活に限らず、色々な場面で活かせるように頑張りたいです。

保護犬

『ちやまめ』

虫掛町 柴沼 恭子



二年前の夏に突然我が家の庭に現れた茶色い犬。柴犬の雑種かと思われる。その時はまだ薄汚れてない毛並に新しい首輪をつけており、首輪にはタグも付いていた。

はぐれて来たのかな、その内どこかへ帰るのかなと思つていたが、その後数ヶ月もさまよっていたので近所の人と保護することにした。

とあるNPOの人に相談した所、馴れたら貰い手を探してくれるとのこと。ところが、散歩と餌には尻尾を振つて嬉しそうにするが一向に馴れてくれない。絶対に触らせないのだ。とても臆病で、人に対して用心してる。酷い目に遭つてきたのだろう。

首輪も汚れ、付いていたタグが劣化して取れたので中を見ると、CAPINと電話番号が書いてある。その番号に何度か電話しても出なかったが、その番号と動物愛護団体のつくばキャビン（志村どつぶつ園にも出ている）の電話番号が同じである事に気付き、他の団体から連絡して



もらったところ、二年前にキャビンから脱走した犬だと確認がとれた。

キャビンのスタッフが来てくれて当時の保護の写真と記録を見せてくれた。去勢手術の翌日に逃げたらしい。名前は「太一」君。

保護してから一年八ヶ月ぶりに素性がわかってホッとしたが、現在キャビンは多くの保護犬を抱えており、夏は暑くて厳しい環境だという事で、9月までは家で保護を続けることになった。

これまで「茶豆」と名付けて呼んでいたが、家では「茶豆」のまま。キャビンで引き取つてはくれるが将来の行き先が決まっている訳ではない。ちゃんと飼ってくれる人が見つかることを切に願う。茶豆こ

と太一君、幸せになって。

はぐれ犬

しよんぼり佇む夏木立 恭子

六十五歳

身体と心

佐野子町副区長 稲見不二意



一月で六十五歳になった。いわゆる定年の齢である。これまで目の見えにくさがあり白内障と診断されていたので、思い切つて三月から四月にかけて右眼、左眼と二回の手術を受けた。手術自体は思つた以上に簡単で、むしろ術後三カ月の点眼の方が苦痛に感じた。結果近眼が無くなり、クリアーな視界が戻った。聴力も左耳で低音が聞こえづらく、近くに頼れる耳鼻科があつたので定期的に通院していた。ところが三月に急に閉院してしまったためネットで評判の良い医院を検索したところ、少し距離はあるが信頼できそうな専門医を見つけたことができた。処置も適切で二回の通院ではほぼ回復した。昔であれば耳や眼の衰えは当然の如く諦められていただろう。今の医療技術の進歩は期待以上のものがあ

り、かつネットを見れば必要な情報もすぐに手に入る。この機会に身体の不具合を修繕できたことは良かったと思う。

ゴルフは三十歳ころから始めて今も続けている。通常はゴルフ仲間の四人あるいは三人一組で予約してプレーするが、最近は一人予約というシステムがあり、知らない者同士がネットで予約して共にプレーする。先日初めてこの方法を利用して参加してみた。初対面でもあり気を遣うこともあったが、心地よくプレーすることができた。話題は自然と自己紹介を兼ねて仕事の話となり「自分は仕事もあるが、ゴルフ週一程度の年金生活者です」と言つと「ああ！それは悠々自適でいいですね」という言葉が返ってきた。定年して仕事のプレッシャーから解放され、ゴルフを楽しめる身分であれば、そう思われるのも当然である。しかし一方で、社会との関係性が少しずつ薄れ、家族への責任も減る中で、自由な時間だけは増えて、将来に対する漠然とした不安が湧いてくることも事実だ。ここにきて身体ばかりでなく、心の不具合も生じていることを自覚すれば『悠々自適』ではなく『憂鬱自敵』の方が言い得ていると思われ

る。体を修復して寿命が延びても、健全な心を維持できなければ仕方ない。自分にとつてこれからの課題は、身体と心のバランスをとりながら少しずつ自己修復することだと考えている。



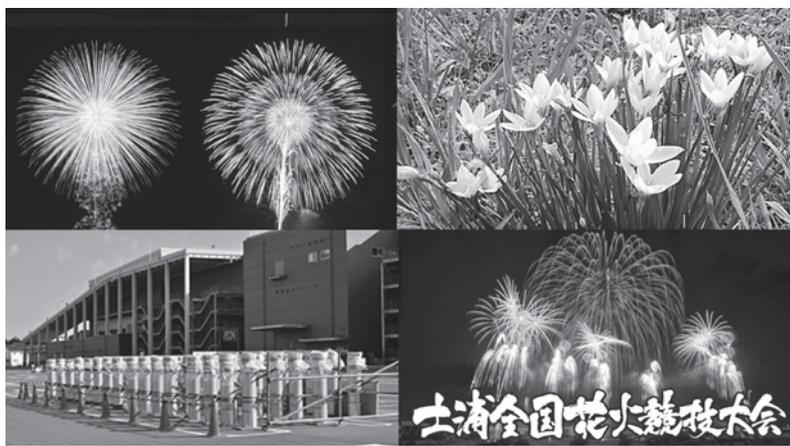
多くの人を魅了する打上花火。

小説家尾崎士郎は「花火が美しいのは人の心に残るから」と瞬間が描き出すその魅力を伝えている。

日本を代表する花火師が桜川河畔に集い、至高の花火作品日本一を競う「土浦全国花火競技大会」。

人出は約七〇万人、土浦市最大のイベントが一中地区で開催される。

当日は、午前六時の時報と同時に打ち上がる「四号雷花火」の音で目が覚める。自宅前の土手では露天商が開店の準備を始め、観覧グッズを抱えた人々が足早に桜川大曲の会場に向かう。年老いた母は朝からソワソワ、私の心もまるでDNAに刷り込まれているかのようにザワザワして落ち着かない。



年一度の「非日常」の一日である。花火会場の河川敷では、八月の旧盆が過ぎると棧敷席用の資材が搬入され、鳶職の皆さんによる組立作業が始まる。本職の現場との掛け持ちで、一ヶ月余りをかけて幅五百Mの区間に約七千マスが完成する。

一般観覧席での大会前の準備作業は草刈り。土手に咲く赤色や白い可憐な花々だけを見事に刈り残す職人技に格別の心遣いを感じる。

桜川の土手は私のジョギングコースであり、毎年こうした初秋の風物

詩を横目に見ながら大会当日に思いを馳せ、走る。

ところで私は、花火の知識を深めることで花火師の匠の技をより楽しみたいと思いつき、「花火鑑賞士」の資格を十年前に取得した。それ以来、訪れた花火大会は年間二桁、県内はもとより北は秋田県大曲、南は広島県宮島まで三十大会を数える。彩りや爆音などの空気感は、現地でしか感じる事ができない。土浦に出品される技術の粋を極めた作品をより堪能するための五感を磨くアイドリングの旅である。時には妻と感動を分かち合うシェア旅でもある。残念ながら平成最後の今大会の結果については本稿に間に合わないが、秋の天空劇場で展開する音と光の瞬間芸術、皆さんの心に残る作品に出会えたであろうか。

翌日早朝の桜川河川敷は、一中地区市民委員会や土小・一中など多くの皆さんによる一斉清掃で見違えるように美しく蘇える。

これこそ土浦の花火に寄せる市民の心意気そのものである。



龜俳句会(同好会)

藍色の手より藍玉生まれけり

杉野 寵児

水泳のこゑ遠くより授業中

今泉 準一

箱庭や回ることなき水車

今泉 晴美

うつくしき播鉢^{すり}かまへ蟻地獄

垣内 かをり

摘む度に草の名問うよ幼子よ

金岡 景子

亀鳴くや電気ポットの独り言

河口 美津子

母子猿登る斜面や木の根明く

矢口 征子

春眠やぼつれてゆるむ釘穴

渡辺 ふみ子

短歌

深みどりみどりきみどり山染めて

クレヨンの匂い思い出したり

大町 齋藤 順子

新秋の池のほとりに秋苦

ひとつ止まればたちまちふゆる

大和町 瀬古澤 和子

秋明菊は風に揺れいてひとりゆく

夫亡きあとのわれの坂道

田中一丁目 井上 寛江

足早に家路を急ぐ秋の陽は

くれない染めて空を燃やせり

生田町 桑 田 今日子

西蓮寺降りゆく里山別世界

誇るがに咲く百合に包まる

中央一丁目 櫻井 雅江

編集後記

連日三十度越えの猛暑の後
は台風、さらに地震災害と、
今年ほど夏から秋にかけ自然
災害の多い年はなかったの
ではないでしょうか。

美しい彼岸花の季節も終わ
り、本格的な秋をこれから迎
え、紅葉観賞へと皆さま各地
へお出掛けになるのではと思
います。

また、恒例の「一中地区公
民館まつり」が十一月十八日
(日)に開催されます。ご家
族お誘いの上ひとときを楽し
んでは如何でしょうか。

さて、今号もこれまでに
ない大勢の皆さまに寄稿を頂き
まして、編集委員一同心より
感謝申し上げます。

(本号の編集担当者)

- 新井 幸男 / 田中久美子
- 岡部 恒文 / 進士 武之
- 梅木 逸夫 / 小野村一博
- 横山 光栄 / 山本 敦子
- 鬼澤 昌宏 / 石川 幸子